

2014年
大河ドラマ
「軍師官兵衛」

もうひとつの官兵衛生誕・黒田氏発祥の地

官兵衛の里・西脇市

江戸時代に編纂された播磨の資料には、「黒田官兵衛やその父は、多可郡黒田村（現在の兵庫県西脇市黒田庄町黒田）の生まれ」とするものが多くあり、西脇市内には官兵衛や黒田家のゆかりの場所が点在しています。
戦国の歴史とロマンに思いをはせながら、通説とは異なる官兵衛の里・西脇市をお楽しみください。



西脇市「官兵衛の里」推進協議会
イメージキャラクター「へそのかんちゃん」

戦国の世を颯爽と生き抜いた 黒田官兵衛の人物像

智将
官兵衛の姿

黒田官兵衛は、風雲急を告げ、生き馬の目を抜く戦国の世において、生涯五十数度の合戦で一度も負けを知らなかったといわれる戦の天才。そして、この男がいなければ、秀吉の天下はなかったといわれる稀代の名軍師です。

一方で、和歌や茶の湯を愛する文化人であり、敬虔なキリシタンでもあり、当時の武将としては、珍しく生涯一人の妻と添い遂げた律儀な人物でもありました。



「黒田如水像」福岡市博物館所蔵

官兵衛の横顔

戦国時代(1546年)に生まれ、江戸時代初期(1604年)までを生きた播磨の武将。元服後に黒田官兵衛孝高(孝隆・よしとか)と名乗り、通称の「官兵衛」や、隠居・出家後の号である「如水(じょすい)」でもよく知られています。

軍師としての才覚に非常に優れ、豊臣秀吉の参謀として大いに活躍し、同じく秀吉の参謀であった竹中半兵衛とともに「二兵衛」と称されました。「本能寺の変」の際には、秀吉に、速やかに京都へ向かい明智光秀を討ちとるべきだと進言し、「中国大返し」を成功させ、その後も計略や諸大名との交渉に活躍し、秀吉の天下取りに大きく貢献しました。偉大なる「ナンバー2」といえます。

遺訓として「人に媚びず、富貴を望まず」があり、名誉や利益を好まず、儉約に励んだ官兵衛の人物像をよく示した言葉といえます。

官兵衛の生涯

1546(天文15)年	【0歳】	黒田城主・八代重隆の子として誕生 ※誕生年は後年度資料から推測。通説では、小寺氏の家老・小寺(黒田)騷摩の嫡男として姫路城で誕生
年不明	【幼少時】	幼い頃に黒田城が近隣豪族の夜襲により落城。母と姫路を目指し、逃げ落ちる。 ※母・於松は加古川を渡る途中で溺死。「松ヶ瀬」の由来となった。
年不明	【壮年時】	御着城主・小寺氏(播磨守護・赤松氏の一族)に仕える。この頃に小寺騷摩の猶子(養子)となり、小寺姓を名乗る。 ※通説では、小寺騷摩は実父とされており、元服後、父とともに姫路城代として小寺氏に仕える。
1567(永禄10)年	【22歳】	家督を相続し、姫路城代となる。志方城主・柳橋氏の娘・光(幸園)を妻とする。
1568(永禄11)年	【23歳】	嫡男・長政(後の筑前福岡藩主)が誕生
1575(天正3)年	【30歳】	織田信長に謁見。羽柴秀吉の配下に入る。(主君の小寺政職にも織田氏への帰属を進言)
1577(天正5)年	【32歳】	中国地方征伐のため、秀吉に姫路城を提供
1578(天正6)年	【33歳】	三木城主・別所氏の毛利方への要返りに起因する三木合戦に参加。続いて、荒木村重が信長から離反。摂津・有間城に脱出に向かうが幽閉され、翌年救出される。
1581(天正9)年	【36歳】	鳥取城を兵糧攻め。「鳥取城渴死」といわれる惨状の末、開城に追い込む。
1582(天正10)年	【37歳】	備中高松城を水攻め。最中に「本能寺の変」が発生。信長暗殺に狼狽する秀吉に「中国大返し」を進言し、明智光秀を山崎の合戦で撃破
1583(天正11)年	【38歳】	大坂城築城の普請奉行に任命。キリスト教の洗礼を受ける。(洗礼名ドン・シメオン)
1586(天正14)年	【41歳】	九州攻めの先鋒を務める。
1587(天正15)年	【42歳】	九州攻めの陰功で、豊前国(6郡)12万石を拝領し、入国
1588(天正16)年	【43歳】	統治の拠点として、中津城(現在の大分県中津市)を築城
1589(天正17)年	【44歳】	家督を嫡男・長政に譲る。
1590(天正18)年	【45歳】	小田原城攻め。城主・北条氏と交渉し、無血開城を実現。秀吉による天下統一が達成
1592(文禄元年)	【47歳】	文禄の役。朝鮮に宇喜多秀家の軍監として渡る。(続く慶長の役でも軍監として参加)
1600(慶長5)年	【55歳】	関ヶ原の戦い。豊後・石垣原の戦いで、大友軍を撃破するなど九州の大半を制圧。関ヶ原の戦いで活躍した嫡男・長政の筑前52万石への移封に伴い、福岡に移る。
1604(慶長9)年	【59歳】	京都・伏見屋敷で逝去

西脇市と官兵衛のゆかり 黒田氏と官兵衛に関する史料

西脇市説 の主張

稀代の軍師・黒田官兵衛を輩出した黒田氏は、近江国出自というのが通説ですが、確たる証拠はなく、後世に福岡藩黒田家の事業として貝原益軒が編纂した『黒田家譜』によるところが大きいのが事実です。また、姫路城で生まれたとされる黒田官兵衛についても、その出生地が確認できる史料は存在していません。

一方、江戸時代に編纂された播磨の地誌類や記録類には、「黒田官兵衛やその父は、多可郡黒田村の生まれ」とするものが多数あります。また、西脇市黒田庄町黒田にある古刹・莊嚴寺所蔵の「黒田家略系図」が近年公表され、官兵衛や黒田氏の西脇市出自説がにわかに脚光を浴びてきています。

その1 「播磨古事」

1784(天明4)年に官兵衛の父・職隆(もとたか)の墓所発見と廟所の建設、官兵衛の祖父・重隆(しげたか)廟所の整備などのため、黒田家が統治した筑前・福岡藩が行った調査記録です。

播磨における黒田氏に関する調査や伝承をまとめたもので、1829(文政12)年に著されており、現在は福岡市博物館に所蔵されています。その中には、次のような記述があります。

- 「小寺官兵衛祐隆(孝隆(よししたか)、後の黒田官兵衛)は、播磨国多可郡黒田村の産なり。その村名にちなんで、後に黒田氏に改めて、姫路城を相続して居城する。」とあります。
- 1784(天明4)年11月に福岡藩士が多可郡黒田村を調査に訪れ、「多田の古城(黒田村にあった城館)は、筑前国主の御先祖の城跡」、「多田の城が攻められたときに、姫路へ脱出した若君が後の黒田家の太祖(官兵衛)である。」などと、当時の黒田村の伝承が、村の見取図とともに記録されています。
- 「播磨の諸記録によれば、孝隆(官兵衛)公は、(小寺)美濃守職隆公の猶子(養子)と書いている。また、姫路の心光寺にある長政公が奉納した3対の位牌が、孝隆公・重隆公・松普禅尼であることや、孝隆公の母の名前は於松、あるいは松の前という黒田村の伝承があることから、孝隆公の父は重隆公で、(小寺)職隆公の猶子となったことが考えられるが、福岡藩黒田家には、このような記録や言い伝えもないことから、今後調査する必要がある。」と記しています。すなわち、官兵衛の父は、職隆ではなく、祖父といわれている重隆で、実は職隆は小寺氏に属する人物で、重隆の子として生まれた官兵衛が、小寺職隆の猶子となったのではないかと、という疑問を述べています。

その2 「莊嚴寺本黒田家略系図」

江戸時代の1809(文化6)年頃に、西脇市内にある黒田氏と姻戚関係にあると伝わる家の子孫が奉納したものです。室町時代に播磨守護であった赤松氏から派生した黒田氏の発祥から滅亡までの歴代を記したもので、莊嚴寺で大切に保管されており、黒田氏・黒田官兵衛の西脇市出自説の有力な根拠となっています。この系図では次のことが記されています。

- 黒田氏は播磨守護・赤松円心(則村)の弟・円光を祖とし、その息子・七郎重光が黒田城に拠って黒田姓を名のったことが始まりとされています。
- 初代・重光の子孫が、代々この地にあった丹波国境との重要拠点である黒田城の城主を継ぎ、八代・重隆の子として産まれた孝隆官兵衛尉(黒田官兵衛)が小寺職隆の猶子(養子)となって、姫路城を守ったと記されています。
- 官兵衛の兄、九代・治隆(はるたか)左衛門尉が黒田城主を継ぎましたが、近隣の攻撃を受けて落城し、宗家は断絶しました。
- 通説では、官兵衛の母は、黒田職隆の妻である明石氏の娘ですが、この系図では、黒田重隆(通説では祖父)の妻となった比延山城主・比延氏の娘と記しています。

比延山城は、黒田城の南、現在の西脇市比延町にあった山城で、黒田氏と比延氏の間には代々姻戚関係があったとされます。この家系図を莊嚴寺に奉納したのも比延氏末裔を名のる一族です。



「莊嚴寺本黒田家略系図」

これら2つのほかに、「播磨鑑」や「播磨古城記」、江戸時代に出版された武鑑(大名や幕府役人の紳士録のようなもの)などに多可郡黒田村生まれや所領としていたことなどを示す記述がみられます。

通説と西脇市出自説 2つの出自説を比較する。

官兵衛の
ルーツは？

黒田氏と黒田官兵衛の多可郡黒田村出自説については、昭和47(1972)年に刊行された「黒田庄町史」で、莊嚴寺所蔵系図の写しと思われる黒田地区所蔵の「黒田氏系図」を用いて、発表されましたが、当時は注目されませんでした。

しかし、近年になり、播磨黒田氏研究会を中心に「播磨古事」や「莊嚴寺本黒田家略系図」の研究が進められ、西脇市出自説が補強され、発表されました。現在のところ、どちらの説も歴史的な真実として証明されていません。

通説と西脇市出自の新説の2つの説は、どのような点が異なるのか…を説明します。

通説——「黒田家譜」による近江国発祥・姫路生誕説

「黒田家譜」は、福岡藩主・黒田家の公式の記録です。寛文11(1671)年に3代藩主・光之の命により、福岡藩に仕えた儒学者・貝原益軒が編纂をはじめ、元禄元(1688)年に完成したものです。

これによると、黒田氏は**近江源氏佐々木氏流を祖先とし、近江国伊香郡黒田村**(現在の滋賀県長浜市木之本町黒田)が**黒田氏の祖・佐々木黒田判官宗清の在所**だとされています。その後、足利將軍家の怒りを買って所領を失い、同族を頼り、備前国邑久郡福岡(現在の岡山県瀬戸内市長船町福岡)に移り住んだ後、官兵衛の祖父・重隆が播磨国姫路に移り、播磨守護・赤松氏配下の**御着城主・小寺政職に仕え、姫路城の城代**となりました。そして、城代の子として**官兵衛は、姫路城で生まれました**。

貝原益軒は、近江六角氏に関する歴史書「江源武鑑」や「寛永黒田系図」を根拠に「黒田家譜」を編纂しており、黒田氏の起源は近江であるとしています。また、官兵衛の生涯を描いた作家・司馬遼太郎の歴史小説「播磨灘物語」は、「黒田家譜」の系図を基に書かれており、黒田氏は近江出自、官兵衛は姫路生まれという認識が多くの人に広まるきっかけとなりました。



「黒田家廟所」

【滋賀県長浜市木之本町黒田】

黒田氏の館跡と伝わる地区の集会所では、改築時に「源宗清」と刻印のある御影石が発見されており、黒田判官を祀る御廟や先祖の地を示す石碑が建っています。

新説——「播磨古事」などによる西脇市出自説

「播磨古事」は、平成18(2006)年に所有者から福岡市博物館に寄贈されました。黒田重隆や職隆の廟所整備などの記録や、播磨における黒田氏の調査や伝承をまとめたもので、文政12(1829)年に著されています。廟所建設の普請方として福岡藩から派遣された山口武庵(たけとら)が、業務の合間に小寺家の菩提寺である姫路・心光寺の古記をはじめ、播磨の旧家に伝わる古文書を開覧し、書き写したものです。

その中には、「**小寺官兵衛祐隆(孝隆)は、播磨国多可郡黒田村の産なり**。その村名にちなんで、後に黒田氏に改めて、**姫路城を相続して居城する**」とあるほか、天明4(1784)年に多可郡黒田村や莊嚴寺を現地調査した記録もあります。また、福岡藩の記録とは異なり、播磨の伝承に基づき、**官兵衛の父は「職隆」ではなく、祖父とされる「重隆」で、父とされる職隆は小寺氏の一族で、重隆の子として産まれた官兵衛が、小寺職隆の猶子(養子)となったのではないかと述べています**。

さらに、近年公表された莊嚴寺所蔵の「莊嚴寺本黒田家略系図」では、**黒田氏は播磨守護・赤松氏の一族で、守護・赤松円心(則村)の弟・円光を祖とし、その息子・七郎重光が黒田城主となり、黒田姓を名のったことが始まりとされています**。**官兵衛は八代城主・重隆の子として生まれ、小寺職隆の猶子となって姫路へ移ったと記されており、「播磨古事」の記述とも一致します**。



「黒田家譜」と「莊嚴寺本黒田家略系図」の比較

「官兵衛の里・西脇市」を旅する ～食べる、買う～

官兵衛
グルメ・グッズ

ふるさとの偉人・黒田官兵衛と西脇市特産品のコラボレーションで、工夫を凝らしたグルメやグッズなどが誕生しました。「官兵衛の里・西脇市」の魅力をお召し上がり、お土産にお持ち帰りください！

食べる～グルメのご紹介



官兵衛の里御膳

西脇市特産の「日本のへそ金ゴマ」がふりかけてあるご飯と、黒田庄和牛や播州百日鶏といった地元食材を使ったおかずが詰められています。予約で販売するほか、一部店舗では提供しています。

●西脇多可料飲組合加盟の一部店舗で販売・提供
☎0795-22-3901



官兵衛さんの家紋巻き

西脇市の特産品である黒田庄和牛と日本のへそ金ゴマ、旬の地元産野菜を自家栽培の紫黒米で、黒田家の家紋である藤巴状に巻き込んだ巻き寿司です。地元の特産品開発を手掛ける黒こまザースが商品化しました。

●北はりま旬菜館で販売
☎0795-24-7900



官兵衛の里の恵み弁当

「官兵衛さんの家紋巻き」のほか官兵衛の里である黒田庄地域の食材を中心に使っています。

●黒こまザースで予約販売
☎0795-28-4176

ご当地グルメ 播州ラーメン



麺は細めの縮れ麺で、ほかのラーメンでは味わえない秘伝の「甘い」スープが特徴です。播州織が隆盛をきわめた昭和30年代に集団就職でやってきた若い女性たちの口に合うように作られたものです。

●市内に認定店が4店あります。

買う～おみやげのご紹介



官兵衛の里せんべい

黒田官兵衛ゆかりの地として黒田家家紋の藤巴を焼印にした瓦せんべい。小麦粉と卵を使った伝統的な製法を守っており「西脇うまいもん職人選品ブランド」にも認定されています。

※イベントなどで出店販売



官兵衛さんの合子兜

戦国大名の間では形兜(なりかぶと)という個性的な兜が流行し、官兵衛の兜は御梶を伏せたような特徴的な合子(ごうす)形兜でした。その兜の姿を再現した饅頭です。



黒田官兵衛Tシャツ

色は赤・白・黒の3種類、サイズは4種類あります。胸の部分には黒田家の家紋・藤巴をあしらった後ろには書道家・森川桂石先生が揮毫した「智謀の将・黒田官兵衛」(赤・黒)、「軍師官兵衛」(白)の文字があります。



純米吟醸酒 官兵衛の里黒田

官兵衛も好んで飲んだ? 日本酒。西脇市内には酒蔵がないことから、お隣の加東市の酒蔵に発注し、兵庫県産の酒米で造っており、官兵衛のふるさとの酒として販売しています。



小物 ハンカチなど

官兵衛の合子兜をプリントした播州織のハンカチ、官兵衛風にした西脇市のご当地キャラ「にっしー」のイラスト入りキーホルダーや扇子などを作っています。



官兵衛関連のおみやげものは、道の駅「北はりまエコミュージアム」や、「西脇情報未来館21」(旧東住家住宅隣接)などで販売しています。

※詳しくは裏表紙をご覧ください。

① 松ヶ瀬 [まつがせ]



多田城落城の際、幼い官兵衛と母・於松(おまつ)は加古川を渡って逃げましたが、母は増水した川で溺死し、官兵衛は姫路に逃れたという伝承があります。

母の名にちなみ、この場所を「松ヶ瀬」といい、現在も小字名として残っています。

② 多田城址 [ただじょうし]



黒田城の山下にあった城主居館と家臣団の屋敷群で、黒田城とは館と詰城の関係にあります。加古川を望む段丘端に築かれており、「播磨鑑」では多田構居と記された平地城館です。平成7年に一部発掘調査が行われ、堀跡や建物が検出されています。

③ 姥が懐 [うばがふところ]



「播磨古事」に記載された伝承によると、多田城(構居)に付随する邸宅跡と伝わっています。

城山と黒田城下を流れる川に囲まれた田畑の周辺が「姥が懐」と記されており、「黒田官兵衛生誕地」の石碑が建っています。

④ 黒田城址 [くろだじょうし]



中世・戦国時代に築かれた山城で、黒田氏9代の居城。現在稲荷神社がある比高約40mの半独立山上に城があったと考えられますが、全体の城郭は不明ですが、帯曲輪・竪堀・堀底道とも見える遺構があります。さらに、東へ続く尾根上にも土橋状の遺構や人工的地形とも見える箇所がありますが、実態はよくわかっていません。



山上からの黒田集落の眺め

西脇市ゆかりの

周
遊
コース

①
松
ヶ
瀬

②
多
田
城
址

③
姥
が
懐



「黒田官兵衛生誕の里」石碑



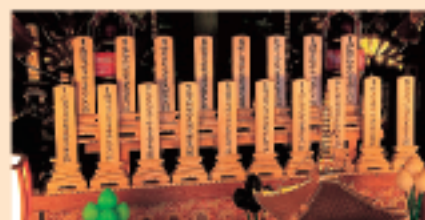
黒田城址のふもと、国道から荘厳寺に向かう途中の道沿いに建っています。記念撮影にどうぞ!

ゆかりの地各所には、案内・説明看板が立てられています。

地散策マップ



5 莊嚴寺 [しょうごんじ]



白雉年間(650～654)年に法道仙人により開基したと伝わる真言宗の古刹で、北播磨随一の紅葉の名所としても知られています。

江戸時代前期に建立された多宝塔は、兵庫県指定の文化財となっており、本堂も大規模な五間堂です。また、かつて鬼迫いや田遊びの予祝行事を行っていた名残の鬼面や用具が多数残されています。黒田氏の発生から滅亡までを記した「莊嚴寺本黒田家略系図」を所蔵しており、持仏堂で複製を公開・展示しており、歴代城主の位牌も安置されています。

●公開時間／午前10時～午後4時(不定休)

6 兵主神社 [ひょうすじんじや]



天正19(1591)年改築の茅葺き拝殿(兵庫県指定文化財)は、別所氏を征圧する三木合戦の際、羽柴秀吉が戦勝祈願成就のために臣下の黒田官兵衛に奉納させた金子により改築されたと伝わっています。

また、戦勝祈願に灯明田を寄進したとも伝わっています。

7 太閤腰掛石 [たいこうこしかけいし]



羽柴秀吉が三木城を攻めた時に、兵主神社への戦勝祈願とともに、大志野(現在の西脇市黒田庄町南部)に陣をとり、この石に腰かけて采配を行ったとの伝承があります。極楽寺境内(本堂の裏手)にあり、当時はこの辺りは兵主神社の森続きであったと思われます。

8 比延山城址 [ひえやまじょうし]



標高287mの比延山の山頂から尾根筋に広がる山城。築城年代は応永年間(1394～1427年)ごろと考えられ、播磨守護・赤松氏の子孫の本郷氏が居城し、後に比延氏を名乗るようになったといわれています。「莊嚴寺本黒田家系図」では、官兵衛の母(八代・重隆の妻)は、比延山城主・比延常範の娘となっています。

道の駅「北はりまエコミュージアム」



官兵衛グッズのほか地域の特産品を多数販売しています。北はりま田園空間博物館の総合案内所を併設しており、地域の観光情報を発信しています。

■西脇市市内 517-1 ☎0795-25-2370

■開館／午前9時～午後7時(冬季は午後6時)

観光案内 官兵衛グッズ

西脇情報未来館 21



中心市街地・国登録有形文化財の旧来住家住宅にある洋館を店舗としています。官兵衛グッズのほか西脇市が誇る地場産業・播州織を使った特産品を中心に販売しています。

■西脇市西脇 394-1

☎0795-25-0077

■開館／午前10時～午後5時
月曜(祝日は翌日)休館

西脇市アクセスマップ



お問い合わせ

西脇市観光協会(西脇市建設経済部商工労政課)

〒677-8511 兵庫県西脇市郷瀬町 605

TEL 0795-22-3111/FAX 0795-22-6987

Eメール shoukou@city.nishiwaki.hyogo.jp

ホームページ <http://www.nishiwaki-kanko.jp/>

官兵衛
情報

「官兵衛の里・西脇市」特設サイトで
最新情報を発信!